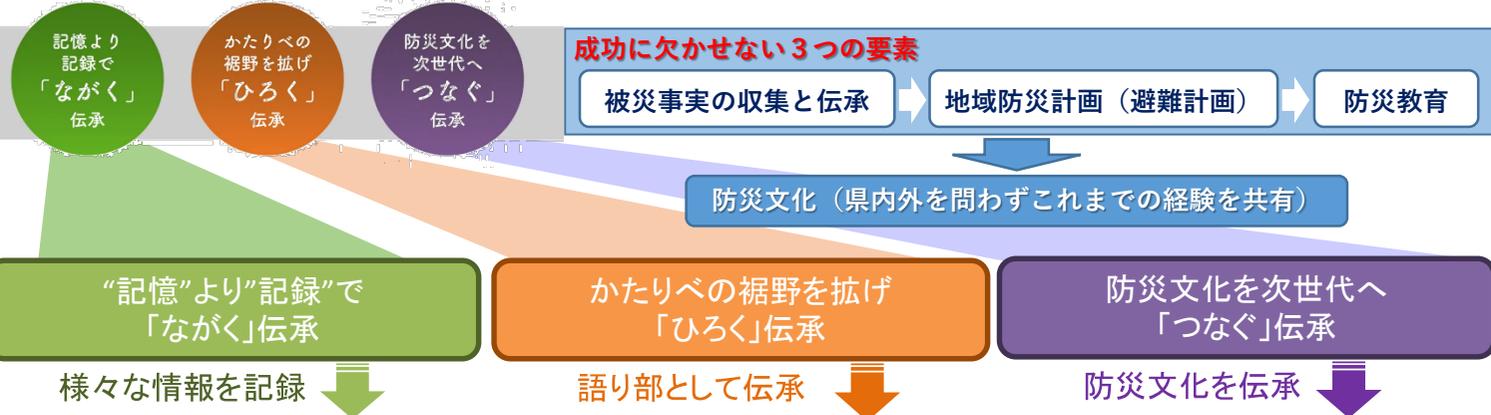


3.11 ながく ひろく つなぐ 伝承・減災プロジェクト



3.11伝承・減災プロジェクト概要

津波災害は発生頻度がまれで世代交代を重ねるうちに防災意識が薄れることが指摘されており、今後起こりうる災害から身を守り被災を軽減させるためには、東日本大震災の苦い経験を後世に伝承していく取り組みが重要となる。
宮城県土木部では「3.11伝承・減災プロジェクト」の名のもと、被災事実を後世に伝承し迅速な避難行動に繋がられるように、「ながく」「ひろく」「つなぐ」の3つの柱を掲げ様々な取り組みを実施している。



○津波浸水表示板などの設置
「津波浸水表示板」は、住民の防災意識の啓発や、避難行動のきっかけに結びつくとして、令和3年3月末までに399枚を設置し広く認知されている。
また県内9か所の海岸堤防等には「3.11 東日本大震災伝承板」を設置し、堤防の効果や整備高さの考え方などが分かるように表示している。



中浜小学校（山元町）の津波浸水表示板



小泉海水浴場（気仙沼市）の東日本大震災伝承板

○デジタルアーカイブ構築
宮城県土木部における震災関連資料をデータベース化したり、記録映像などを作成したりすることで、防災対応力向上や防災意識啓発を図る。

○パネル展の開催
県内・県外各所の様々な機会で開催。復旧・復興の進捗状況などとも合わせて最新情報を発信することで、住民の復旧事業への興味関心を喚起し、防災意識の向上を図る。



震災対策技術展（AER）でのパネル展

○津波防災シンポジウムの開催
津波防災意識の向上を目的として県内沿岸部の自治体を中心に開催している。
令和7年度は「防災文化を後世へつなぐ」をテーマに、震災教訓を活かした津波防災と次世代への伝承について考える内容で開催し、約190名の方々にご参加いただいた。



令和7年度津波防災シンポジウム（石巻市）

○出前講座
全国の行政機関や県民に向けて、東日本大震災時からの復旧・復興事業で得た経験や知見や3.11伝承減災プロジェクトの取り組み等について伝えることで防災意識啓発をしたり、今後起こりうる災害へ備えるきっかけにしよう。



徳島県職員向け出前講座



神奈川県職員向け出前講座

